

報 告 書

(委 員 会 名) 文教厚生常任委員会

(視 察 日) 令和 5 年 10 月 17 日 (火)

(視察先都市名) 芦屋市

(視 察 項 目) 「コミュニティ・スクール」について

(内 容) 報告者 中道 恭子 山本 貴美子

1, 目的

地域コミュニティづくりやその活動について、「芦屋市コミュニティスクール」の先進的取り組みを調査し、今後の取り組みに活かしていく。

2, 内容

芦屋市のコミュニティスクールは、政府が平成 29 年からすべての公立学校に導入を推進しているコミュニティスクール（学校運営協議会）とは全く違うもので、芦屋市では、昭和 52 年の総合計画で、小学校を核とした学習活動・地域交流を軸としたコミュニティの形成を目指す「芦屋市コミュニティ・スクール構想」を掲げ、昭和 53 年に三条に設定されたのを皮切りに昭和 61 年までに、全ての小学校区（9 小学校区）にコミュニティ・スクールが設置された。

そこで、地域住民による自主的企画、運営で、文化・スポーツ・福祉活動・その他の地域活動などを行っているなどの取り組みについて、教育委員会、教育部社会教育室室長より説明を受け、その後、質疑応答をした。（内容については添付資料参照）

3, 考察・感想

- ・芦屋市のコミュニティスクールについては、本市の公民館の自主事業や放課後子ども教室の取り組みに似ている印象を持っていたが、全く違う芦屋市独自の取り組みであることがわかった。

- ・歩いて行ける小学校を核としたコミスクは、自治会・町内会・老人会・子ども会などの社会団体と文化・スポーツ団体なども入って活動し、それぞれの連携・協力関係が構築できている。

- ・自主的な文化活動・スポーツ活動や地域活動を通じて、学校・地域・家庭の連携と住民相互の連帯感や自治意識を高め、市民参加のまちづくりの拠点となっている。

- ・行事の際のチラシ配布や安全面での見守り、人集めなどもコミスクを通せば地域活動がスムーズである。

- ・地域の要望などもコミスクを通して行政とつながることも多い。

- ・芦屋市では、マンションに自治会はあるが、連合会に加入しないところもあるなど、地域活動への参加が難しい面があり、コミスクに登録し、活動することにより地域とつながっていくなどの利点がある。

- ・芦屋市コミスクは、S52 年からこの構想を総合計画に掲げ、翌年から「芦屋市コミュニティ・スクール構想」として作り上げてきた取り組みであり、今では行政と地域、市民をつなぐものとして欠かせない存在になっていることを感じた。

- ・敦賀市では、3つの地区で公民館を中心に「コミュニティ運営協議会」が立ち上がっており、こうした活動の参考になると感じた。

- ・課題としては、コミスクの指導者や幹事など、地域の取りまとめ役を担ってこられた方の高齢化、次世代の人材不足があることなど伺ったが、この様な素晴らしい取り組みの維持もリーダーとなる人の熱量で変わってくるのではないかと考える。どの地域にあって同じだが、人材の育成と自主活動に行政がどの様に関わり、相談にのって必要なサポートをしているのかということが重要だと感じた。

大変学ぶことの多い視察であり、今後の活動に活かしてまいりたい